

# 共に学び合い・成長する、のこころ



1月24日 逍



逍遙館長さんが特に関心を持っているのが、この「郷中教育」なんだそう。これは、「教える」というよりは「年長者」と「年少者」の間で「共に学び合う」、薩摩独特の異年齢集団による自主相互の教育システムだったそうで、逍遙館長さんは以前、青少年育成にも関わった経験から、このシステムは今の時代にも必要なのでは、と強く感じているよう。だからなのか、「教員」とも「塾講師」とも異なる、次世代型の学びの場を提供し、そのチャンネル登録者数が多世代に亘り百万人を超える、最近話題の「若き教育系ユーチューバー」の存在は、逍遙館長さんの目にとっても新鮮に映ったようです。

学校の授業が分からない子や、家庭の事情等で塾に行けない子、新型コロナウイルスによる一斉休校等で満足に学べない子に、ユーチューブを通じて、いつでも何度でも無料で学びの場を提供する、その兄貴的なキャラクターと、「人の心」を込めたポジティブで分かりやすい語り口には、「教える人」と「教えられる人」という関係ではなく、「共に成長する」信頼があるようで…

次回「すずの『日向ぼっこのすゝめ』、のこころ」